



S. Setoguchi

THE YOMIURI MILERS CUP

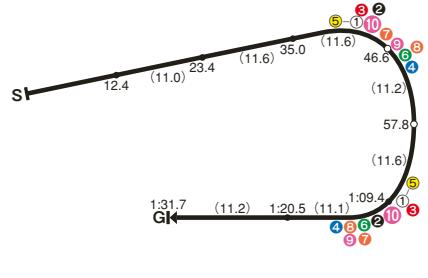
第56回 読売マイラーズカップ (GII)

1着	2着	3着	4着	5着
本賞 59,000,000円	24,000,000円	15,000,000円	8,900,000円	5,900,000円
付加賞 700,000円	200,000円	100,000円		



4歳以上、除未出走馬および未勝利馬

負担重量 57kg、牝馬 2歳減、2024.4.20以降 GⅠ競走(牝馬限定競走を除く)1着馬2歳増、牝馬限定 GⅠ競走または GⅡ競走(牝馬限定競走を除く)1着馬1歳増、2024.4.19以前の GⅠ競走(牝馬限定競走を除く)1着馬1歳減(ただし 2歳時の成績を除く)



2025.4.27 京都 晴・自 芝1600×= 國際 指定

2023.5.27 京都競馬場 1000万円 (重賞) [結果]												
着順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム	コーナー	上り	馬体重	単勝	調教師	レーティング
1	⑩	ロングラン	牡 7	57	岩田康誠	1:31.7	6 - 7	33.3	478(±0)	10.2(5)	和田勇介(美浦)	111
3	③	ジュンブロッサム	牡 6	58	武井	5分	8 - 8	33.2	482(+4)	2.1(1)	友道康夫(栗東)	112
3	⑧	セゾ	牡 5	57	岩田望来	1分1/2	2 - 2	34.2	498(+2)	4.4(2)	上村洋行(栗東)	107
4	②	ニホンピロキーフ	牡 5	57	田口貴太	5分	6 - 6	33.9	486(-4)	4.8(3)	大橋勇樹(栗東)	106
5	⑦	グラティアス	牡 7	57	北村友一	5分	5 - 4	34.1	494(-12)	41.9(9)	安田翔伍(栗東)	
6	①	ホウオウカリアリティ	牡 7	57	田口大成	アタマ	8 - 8	33.6	484(+2)	43.4(10)	井上智史(栗東)	
7	⑤	エアファンディタ	牡 8	57	M.デムコ	クビ	10-10	33.1	470(+10)	29.0(7)	池添	(栗東)
8	⑧	レイペリング	牡 5	57	和田竜二	4	4 - 2	35.0	484(-12)	26.5(6)	鹿戸雄一(美浦)	
9	④	ピーストニッションド	牡 6	57	西村太一	3分1/2	1 - 1	35.8	476(-4)	35.9(8)	堀内岳志(美浦)	
10	⑯	ミスタークイーン	牡 4	57	坂井拓星	ハナ	2 - 4	35.5	472(+2)	9.7(4)	乍谷作人(栗東)	

单穗①1020田(5人) 复穗②180田(4人) ③120田(1人) ④130田(2人) 极速⑤⑥700田(3人)

単勝⑩1,020円(5^気) 復勝⑩190円(4^気) ③120円(1^気) ⑧130円(2^気) 枠連③-⑧
馬連②⑩870円(4人) ロイド③⑩360円(4人) ⑧⑩530円(7人) ②⑩8230円(1人)

馬連③-⑨10円(4人) ツイント③-⑩360円(4人) ⑧-⑩630円(7人) ③-⑧230円(1人) 馬単⑩-③3,080円(10人) 3連複③-⑧-⑩1,190円(2人) 3連単⑩-③-⑧10,820円(29人)

アラカルト

- ・岩田康誠騎手はマイラーズC初勝利。JRA重賞は本年初勝利、通算114勝目
 - ・和田勇士調教師はマイラーズC初勝利。JRA重賞は本年2勝目、通算4勝目
 - ・ヴィクトワールピサ産駒はJRA重賞通算9勝目
 - ・7歳馬の勝利は12年シルポート以来13年ぶり、通算5回目
 - ・驕馬の勝利は初
 - ・ロングランは安田記念(G1)に優先出走できる

ロングラン *Long Run*

驕鹿毛 2018.2.9生
北海道千歳市 社台ファーム生産
馬主・梅澤明氏 美浦・和田勇介厩舎
馬名意味・長く元気に走ってほしい

		ノッティビアンカFR系 F16-c
ヴィクトワールピサ 黒鹿毛 2007	ネオユニヴァース 鹿毛 2000	サンデーサイレンスUSA ポイントッドパスGB
	ホワイトウォーターアフェアGB 栗毛 1993	Machiavellian Much Too Risky
	Kendargent 芦毛 2003	Kendor Pax Bella
	Biancarosa 鹿毛 2007	Dalakhani Rosa di Brema
ノッティビアンカFR Notte Bianca 鹿毛 2013		

5代までのインブリード：Halo S 4×S 5

INTERVIEW

喜木杏里氏(社台ファーム・事務局)

ひと皮むけてくれた印象です

GⅢを勝ったばかりでのGⅡ挑戦、しかも初距離ということで半信半疑な面もありましたから、ゴール前で馬群を割ってきたシーンでは本当に大きな声が出ました。完全に一皮剥けてくれた印象です。梅澤オーナーご夫妻にはいつもお世話になっており、前走でようやく重賞勝ちをプレゼントできたと思ったらGⅡも完勝。安田記念もスタッフ皆で応援したいと思います。



ダートで未勝利、1勝クラス戦を勝ち上がり、ジャパンダーティダービーにも駒を進めた(9着)本馬は、3歳時の秋に去勢された後、芝路線に転じて23勝クラス特別を連勝。オープン入り後はなかなか勝ち切れないレースが続いたものの、キャリアを重ねながら着々と地力を強化し、前走の小倉大賞典で念願の重賞初制覇を果たした。デビューランとして初のマイル戦に矛先を向けたこの日も、コース及びレースコードに0秒4差と迫る高速決着にしつかり対応し、十分な適性と充実ぶりをアピール。ソウルラッシュが主役と目される安田記念戦線に、同じ7歳の

父ヴィクトワールピサ

北海道千歳市 社台ファーム生産 中央、仏、首15戦8勝(ドバイワールドC・首G1、皐月賞G1、有馬記念G1、中山記念G1、弥生賞G1)、ラジオNIKKI杯2歳S・JpnIII、日本ダービーG13着、ジャパンC G13着)、12年から供用、21年輸出(トルコ)〔代表産駒〕**ジュエラー**(桜花賞G1)、**ロングラン**(本馬)、**アサマノイタズラ**(セントライト記念GII)、**スカーレットカラー**(アイルランドトロフィー府中牝馬S GII)、**ウイクトーリア**(フローラS GII)、**コウソクストレー**(ファルコンS GIII)、**ウォーリングステイツJPN** Warring States(バーバリアンクラシック・独G3)、**ブレイキングドーン**(ラジオNIKKI賞GIII)、**レッドアネモス**(クイーンS GIII)、**ミッシングリンク**(TCK女王盃JpnIII)、**ミヤジコクオウ**(鳳雛S・L、レバードS GIII2着)、**アクアミラビリス**(エルフィンS・L)

母ノッティビアンカFR

仮5戦1勝(アイソノミー賞・L2着、クリテリウムドサンクルーグ13着)、16年輸入

ダイワセントライト(17 牡父Le Havre)持込 中央7戦0勝、障害5戦0勝
ロングラン 本馬(18 雄父ヴィクトワールピサ)中央25戦7勝(マイラーズC GⅡ、

小倉大賞典GⅢ、デ

賞典GⅢ2着)、地方1戦0勝 獲得総賞金22

(19 牝父ハーツクライ)

ランプシー(20 牡父ハーツクライ)中央12戦2勝
パンジャ(21 牡父ゴールドシップ)中央16戦2勝 ~~廻~~

ボンヌソワレ(22 牝父レイディオロ

現

表24(死産)、25(不全胎)

祖母ヒアルガロー Blancarosa

トモギー・モード Tomytec Gold (1/18 特別仕様)

トヨコーゴルト Tokyo Gold(18社文研ダーベント)北米、伊、仏3勝
(伊ダービー^{G2}、クリテリウムデルエスト・仏L、ベルモントダービー招待S、当G、2差)

曾祖母口一ガミイゴリ子 Rosa di Bremo

イタリア産、伊6勝(伊オーフスG12着、アルキメディア賞・L3着)、ローザデルドバイIRE(マリオンインチザ賞・伊G3、輸入繁殖牝馬)、ロランド Rolando(コンピエーニュ大賞・仏1レースツアーレー賞・仏G3、3着)の母。

春の京都開催の開幕を飾るマイル重賞・マイラーズCで主役の脚光を浴びたのはジュンブロッサム。昨秋の富士S、ソウルラッシュを豪快に差し切った星が光る6歳馬が断然の支持を集め京都金杯の4着馬セオと前年の3着馬ニホンピロキーフ、5歳両馬がこれに続いた。しかし中心勢力と目された3頭の前に立ちはだかったのは7歳の土豪。5番人気のロングランが2月の小倉大賞典に続く重賞連勝を飾った。先導役を務めたのは3年前のスプリングSの覇者ビーストニッシド。出足に優ったセオは緩みのないラップを連発して飛ばす逃げ馬を先に遣り、2番手を進む。ニホンピロキーフは中団

ロングランと岩田康誠騎手のコンビが、その内を追走。ジョンブロッサムは2頭の3馬身ほど後ろ、後方2番手でじっくりと末脚を温存した。

坂の下りで前に接近、直線入口で先頭に立ったセオは鋭く加速して2、3馬身のリードを開く。対して岩田騎手は脚を溜めて4コーナーを回り、直線に向くと先に仕掛けた「ホンピロキ」の内を狙つてスパート。エンジンに火がついたロングランは、ベテランのソツのないリードに応えて非凡な決め手を繰り出し、押し切りをはかるセオを一気に呑み込むと、外から追い込んできたジョンブロッサムの強襲も抑え、ゴールに飛び込んだ。

マイル路線に7歳の“新星”が急浮上

ロングランと岩田康誠騎手のコンビが、その内を追走。ジュンブロッサムは2頭の3馬身ほど後ろ、後方2番手でじっくりと末脚を温存した。

坂の下りで前に接近、直線入口で先頭に立ったセオは鋭く加速して2、3馬身のリードを開く。対して岩田騎手は脚を溜めて4コーナーを回り、直線に向くと先に仕掛けた「ホンピロキ」フの内を狙ってスパート。エンジンに火がついたロングランは、ベテランのソツのないリードに応えて非凡な決め手を繰り出し、押し切りをはかるセオを一気に呑み込むと、外から追い込んだジュンブロッサムの強襲も抑えきった。ゴールに飛び込んだ。

ダートで未勝利、1勝クラス戦を勝ち上がり、ジャパンダートダービーにも駒を進めた(9着)本馬は、3歳時の秋に去勢された後、芝路線に転じて2勝クラス特別を連勝。オープン入り後はなかなか勝ち切れないレースが続いたものの、キャラクターを重ねながら着々と地力を強化し、前走の小倉大賞典で念願の重賞初制覇を果たした。デビューカーデに0秒4差と迫る高速決着につかり対応し、十分な適性と充実ぶりをアピール。ソウルラッシュが主役と目される安田競走線に、同じ7歳の